

予選を勝ち上がりし十六名によって行われた準決勝。

①卓ではそれまでトップ目だった「天鳳最強位」丸山智樹を、関西学生大会代表の星野大志がオーラスでの三軒リーチを制し勝ち上がり。

②卓ではプロ予選勝ち上がりの福田聰(日本プロ麻雀協会)が東初に挙げたハネ満のリードを丁寧に守りきつて逃げ切った。

これに対し、③卓では雀鬼会・金村尚紀が親で猛連莊。④卓でもホンイツ・ドラ三の三面張に競り勝った小山田稔(さかえ新潟店代表)が親番で連莊し、東場で勝負を決めてしまった。

かくして迎えた決勝戦。

機先を制したのは金村であった。

七巡目に中を仕掛けて一向聽。

東一局 西家

ボン ドラ ボン

チー ドラ ボン

ボン ドラ ボン

枚の満貫を打ち込んだ。

中部北陸地区を勝ち上がりした小山田も負けじと二三〇〇・二六〇〇を和了り南1局福田親番で聴牌。

この親満を丁寧にダメで物にした。

残すは三局。たった三局流せば福田の勝利である。

だが、私は、そしておそらく福田も知っていた。現役の京生大で温和な人柄の星野だが、この先取点は非常に大きいものに見えた。

一方の打ち込んだ金村。東初は真っ直ぐ行くと決めていたのだろう。まるでダメージは無いと言わんばかりの顔である。

ところが次局、この星野が金村のリーチを準決勝で見せたクレバーンな打ち筋からこなに痛恨の放銃。

東の対子落としを捕らえられ、裏が三

これに立ち向かったのが北家の星野。

という絶好の三面張でリーチをかけ、八島を振り替えた金村から満貫を物にした。

現役の京生大で温和な人柄の星野だが、準決勝で見せたクレバーンな打ち筋からこの先取点は非常に大きいものに見えた。

一方の打ち込んだ金村。東初は真っ直ぐ行くと決めていたのだろう。まるでダメージは無いと言わんばかりの顔である。

リーチを受けた十三巡目、金村の手牌は

こうである。

だが、ここであの男がやってきた。

雀鬼・桜井章一氏をして「現役で雀鬼会

最強」と言わしめた金村尚紀である。

リーチを受けた十三巡目、金村の手牌は

こうである。

だが、ここであの男がやってきた。

雀鬼・桜井章一氏をして「現役で雀鬼会

最強」と言わしめた金村尚紀である。

リーチを受けた十三巡目、金村の手牌は

こうである。

だが、ここであの男がやってきた。

雀鬼・桜井章一氏をして「現役で雀鬼会

最強」と言わしめた金村尚紀である。

リーチを受けた十三巡目、金村の手牌は

こうである。

だが、ここであの男がやてきた。

雀鬼・桜井章一氏をして「現役で雀鬼会

最強」と言わしめた金村尚紀である。

桜井章一

